

# 館山寮 再 建 状 況 報 告

二〇一九年九月八日（日）の第十五号台風で館山寮の男子棟が全壊致しました。それから約二年半が経ち、ようやく現地にて工事前の地鎮祭が行われ、臨海教室も今年度は実施できる望みが出てまいりました。

ここに改めて寮の損壊から、再建計画の策定、現在に至るまでの経緯をまとめて皆様にご報告いたします。

なお、以下では人名敬称を省略しております。また西暦は下二桁を表示。

## 台風被害の状況と瓦礫撤去



母校の臨海教室や同窓生の宿泊などの用に供しております館山寮（旧 塩見寮）は台風十五号の強風により男子棟の屋根が吹き飛ばされ全壊と認定される



甚大な被害を受けました。

幸いにも館山寮の損壊による近隣住宅等への二次被害はありませんでしたが、瓦礫などで近隣に迷惑を掛けないように、朝陽水泳会のメンバーを中心に現地の後片付けを行いました。



損壊報告を受け、翌月一九年十月には朝陽会の第三回理事会（以下理3のように表記）で以下の決議が成されました。

## 館山寮再建の決定と再建委員会

\*\*\*

・館山寮の臨海教室開催は、およそ百年の伝統を有する意義ある大きな教育行事であり、学校も生徒もその意義は大いに認識している。

・従って母校・保護者・朝陽同窓会が共に手を携え、来年の臨海教室が無事開催できるよう館山寮男子棟を修復したい。但し朝陽会は資金余裕無く、PTAと朝陽同窓会に寄付を要請することとする。

・また理事会内に修復実行委員会を編成し、被害状況の確認、修復計画の立案、保険会社との交渉、工務店の選定等について事務局を支援する。

\*\*\*

館山寮の再建は財団法人朝陽会（以下朝陽会）事項であり朝陽会に任せておくべき等の意見もありましたが、同窓会は十月十六日に第六十回代表幹事会（以下代60のように表記）を開催し、

朝陽会理事会の決議に賛同し、「全力で館山寮男子棟の再建を支援する」ことを決議しました。修復のための財団への寄付は百周年記念朝陽募金からの支出とし、募金のさらなる積み増しの呼びかけを十一月末から開始することとしました。

### 再建委員会

これらの議論を踏まえ一九年十二月朝陽会の理4にて、以下のように再建委員会を設立し、損壊建物撤去を含む第一期工事計画を策定しました。

\*\*\*

・再建工事を計画監督するため、財団内に委員会を編成。事務局は同窓会事務局が担当する。  
メンバーは以下の通りとする。

委員長 寺澤忠興22 業務執行理事  
委員

岩崎洋平38 財団評議員、一級建築士  
鈴木仁志38 財団評議員  
近藤正昭38 火災保険会社勤務  
原田将史48 一級建築士  
アドバイザー

奥村直生 財団理事、PTA会長  
田久保裕之52 母校体育科教員

アドバイザー

龍岡直道24

朝陽同窓会副会長

設置された再建委員会は、館山市役所等各関係先を訪問し現地事情の聞き取りを行ないました。



### 再建への歩み 第一期工事計画

学校は一九年十二月に臨海プロジェクトチームを発足させ、田久保体育教育52を中心に「二〇年に仮設の施設で臨海教室を行う案」、「女子寮のみを使用した案」、「他校施設を拝借する案」など、学校として諸案を検討しました。

同窓会は、代60を受けて館山寮再建資金を募るために、一九年十二月に約一万七千通の募金趣意書を会員に発送しました。その結果翌年一月末の募金総額は一千万円を超えました。現役生、その保護者や他校関係者からも多くのご寄付を頂きました。

しかし、工期が確保できないことか

### 第一期工事計画

男子棟再建が間に合わずともホテル宿泊などでの臨海教室開催に備えて二〇年夏前までに男子用風呂と便所の改修を実施する。改修のための設計監理は再建委員会の原田将史に委嘱。

具体的工事内容は

- ・男子棟の解体・撤去
- ・男子用風呂・トイレの改修
- ・漏水し修理不能の受水槽の取替

\*\*\*

二〇年一月に、館山寮建物の保険金（八、六五九万円）を損害保険会社から受領しました。建物が全壊と認定されまとまった額の保険金を受け取れました。長い間保険料を支払続けて頂いた先輩方に感謝です。

二〇年三月には、再建委員会は第一期工事を依頼する候補となる建設会社

として、ニジャーキテクツ、積水ハウス、住友林業、石井工務店、システム建設の五社をリストアップしました。

しかし、母校の新型コロナウイルス感染拡大防止策に併せて同窓会も五月末まで事務室閉鎖。テレワークによる在宅勤務などで対応に勤めました。が、総会・代表幹事会・役員会、などの各会合はすべて開催を延ばすか紙上開催とせざるを得ませんでした。このような事情で、候補となった五社からの絞り込みを含め、第一期工事は遅延しました。

二〇年五月の代63議題は二〇年度総会に提出すべき役員人事・規約改正・予算決算などを含むものでした。総会が開催できない恐れもありましたので、「この代表幹事会の開催をもって総会の代替としたい」旨を事務局より提案いたしました。

しかし何分にも代表幹事会の紙上開催は初めてのことで、採決方法等に不手際があるとの指摘が出て、代表幹事会への議案は差戻しとなりました。

このような中、六月に田中会長から

「病により辞任したい」との申し出があり、同窓会活動には更に混乱・停滞が生じましたが、第一期工事の設計・監理はニジャーキテクツ一級建築士事務所に委嘱し、施工は相見積もりの結果石井工務店に発注し、二〇年七月第一期工事が完了しました。（男子棟の解体・撤去工事は五月の連休後、男子用風呂・トイレの改修は七月末にそれぞれ終了。また昨年漏水して修理不能の受水槽の取替も同時に実施）

なお、この工事費は男子棟解体・撤去に五百万円、男子用風呂・トイレの改修に一千百万円掛かりました。



### 再建への歩み 第二期工事計画

二〇年八月、山本展也27、島崎主税28の両名から、加藤建設、三浦建設、白幡興業の三社を新たに建設業者候補として追加してはどうかとの提案を受けました。第二期工事を可能な限り廉価に行うべく、ご自身の伝手を頼って業者を探してくださいました。

二〇年十月には、紙上開催された代表幹事会で、新会長に橋本健一副会長19（朝陽会の代表理事も兼務）が選出されました。この人事は同年十二月に紙上開催された二〇年度同窓会総会で承認を受けました。

同じく十月には、理3で決議された館山寮再建を実現すべく、書面開催された朝陽会理事会にて以下の第二期工事計画が承認されました。その後すぐに開催された同窓会代表幹事会でも、「二年続けて臨海教室無しは、臨海教室の永続的取り止めにつながる恐れあり」ということで、この計画は承認を受けました。

\*\*\*

### 第二期工事計画

- 工期  
コロナ対策を十分施した上での二一年六月工事完成を目指す。
- 女子棟  
男女同等の施設が望ましいとの学校側の希望をいれ、老朽化した女子棟の再建も考慮する。
- 予算限度額  
以下の手持ち資金の範囲内とする。

保険金 八、六五九万円

再建募金 二、一四〇万円

第一期工事 △一、六〇〇万円

差し引き計 九、二〇〇万円

・建設会社

見積書を提出して協力を申し出ているのは、加藤建設、三浦建設、白幡興業、住友林業、システム建設、石井工務店、ニジャーキテクツ、積水ハウスの八社。

この八社の見積書や会社財務状況、過去の建設実績を再建委員会と事務局で検討した結果、再見積もりを依頼する会社を、加藤建設、白幡興業、住友林業の三社とする。

・日程

十一月までに建設業者を一社に決定し、二一年一月から工事を開始し六月には完成を目標とする。

・再建委員会の再編

建設完了までの施工管理は、新たに以下の二人を加えて再建委員会が担当する。

委員 湯山康樹 25 一級建築士

委員 富宇加潤 48 一級建築士

この決定を受けて、加藤建設、白幡興業、住友林業に対し以下の条件で見

積依頼をしました。

・工期 二一年六月完成

・仕様 男子棟再建、女子棟改築、保健室増築、

各室二段ベッド仕様、

浄化槽改修

・予算 九二百万円

・回答 十一月末

\*\*\*

しかし、三社とも「仕様が当初と異なる」などの理由で見積書の提出を辞退。そこで十二月に男子棟のみの復元ではどうかと見積の再依頼を白幡興業、加藤建設の二社に出しましたが、白幡興業は人手が足りないなどの理由で見積の提出を辞退。加藤建設からは概算見積を受領しましたが、男子棟・保健室新築、浄化槽改修（法令の改正等により、現浄化槽が法令違反となっていることへの対応）の見積概算は五千円、完成は最短で二一年末とのことでした。

これを受け、学校側には二一年六月までの完成は不可能であることを伝えました。

二〇年度同窓会総会は一二月に紙上

開催されましたが、館山寮の第二期工事計画は朝陽会が責任を持つ範疇であるとして総会では討議されませんでした。



再建委員会の再編と再建案の改定

二一年一月には、再建委員会を再建実行委員会として再編成することになりました。

これまでは再建計画立案が最優先というところで、委員会の権限や規定が明文化されないまま運営されてきたものを、文書規定を置いて、より透明な運営にするための再編です。

明文化された「館山寮再建実行委員会規程」の主要部分は以下の通りです。

\*\*\*

・委員会は代表理事の求めに応じて、館山寮再建計画に関する設計と条件、工事内容の確定などを検討・立案し、報告する。

・委員会は代表理事の求めがない場合においても、館山寮再建計画に関して重要と判断した事項に関し、代表理事

に提案、対処策の立案・報告を可能とする。

・委員の選定方法を明示する。

\*\*\*

委員会メンバーは、新たに同窓会副会長二名を加え、以下の通りとしました（留任は再建委員会から継続）。

- ・委員長 高橋寛32 副会長
- ・委員 柴田真樹18 副会長
- 湯山康樹25 (留任)
- 鈴木仁志38 (留任)
- 岩崎洋平38 (留任)
- 駒形昭子43 朝陽水泳会
- 富宇加潤48 (留任)

再建実行委員会は、コロナ禍のなかリモート会議を毎週のように行うなど精力的に活動を続け、二一年五月には、再建工事の障害となる既存不適格部分（浄化槽を指します）の解決を図るため、社会的信用があり実績のある四社に設計委託料の見積もりを依頼し、最低価格を提示したニジアーキテクツ一級建築士事務所を選任しました。

二一年五月に書面開催された代65、

および六月紙上開催の二一年度同窓会総会では会長・幹事長交代（青柳正規15新会長、橋本健一19新幹事長）や館山寮再建実行委員会の設置、建築設計事務所の選任についていずれも承認を受けました。

同年十月の代66では以下の工事現況報告が了承されました。

\*\*\*

- ・ニジアーキテクツと契約を締結し、設計費六六〇万円を支払う。
- ・基本設計については学校側の要望も受け建物配置四案を検討中。なお、設計段階から施工業者が施工受託を前提に参画することで工期短縮とコスト削減を図るECI方式に準じた設計方式を採用する。
- ・五社に対し設計段階での技術協力見積書の提出を依頼。回答のあった加藤建設、白幡興業、石井工務店の三社の中から、見積額・建築実績・ウッドショックへの対応の観点から地元の加藤建設（南房総市）を選定。技術協力費用は約三十万円。

\*\*\*

朝陽会は、十一月の理4で左記の第

二期工事計画を承認しました。

\*\*\*

#### 第二期工事計画（最終案）

・工事内容・男子棟及び女子棟の再建と浄化槽の更新を実施

工事は来年一月に着工し、六月末に完成を予定

施工は加藤建設に発注、設計工事監理はニジアーキテクツに委嘱

工事費総額は一一、一〇七万円を上限にし、代金は財団の積立金からまず拠出。不足分は更なる募金を充当。

・男子棟・全てを新たに建築。7.2m×5.4mの分棟型宿泊室六室を直列的に配列。これには教員室、OB室各一室を含み、全室布団敷を想定

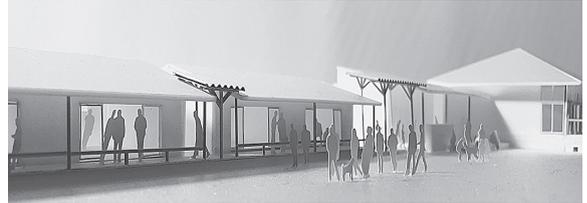
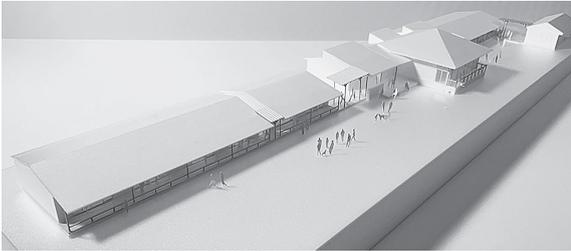
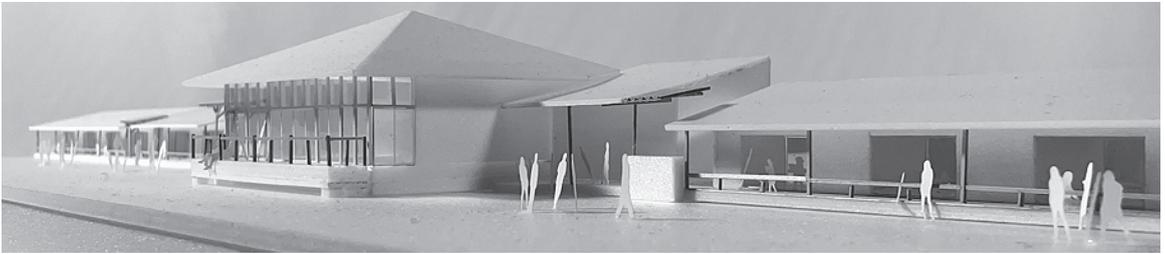
・女子棟・既存女子棟はシロアリ被害により、解体し新たに建築。4.5m×8.1mの分棟型宿泊室五室を直列的に配列。これにはOG室一室を含み、全室布団敷を想定

・浄化槽・法不適合是正

・管理人室改修・台風被害（雨漏り）対策

・工事日程

施工業者との仮契約 二一年十二月  
本契約と着工 二二年一月



工事完了

二二年六月

・施工業者選定

既に技術協力者として委嘱済みの加藤建設を指名。選択理由は以下の通り。

☆同等規模の木造建築を多数建設するなど建設実績豊富

☆建材の確保などウッドショックへの対応力を評価

☆第二期工事にも意欲を提示

☆基本部分の工事費概算見積額が妥当な範囲で、当方の予算額と合致

・工事監理・結果検収

基本設計を依頼したニジャー・アーキテクツに委嘱

・工事費および関連費用

昨年十月時点での見積もりに対し、一、九〇七万円の増加。要因は浄化槽更新約二千万円とカーテン、空調機等什器備品の購入などの初期費用三百万円の追加。なお女子棟を改築から解体新築に替えたことを含めても建築の費用は前回予算内。

・資金手当

工事費は、財団手持資金から支出  
二一年十月末の手持資金

保険金

八、六六〇万円

建募金既応募

三、二四八万円

第一期工事代金

△一、六〇〇万円

合計

一〇、三〇八万円

不足分は二二年一月にニューズレターを発行し、再建募金を募り充当。

工事代金の支払予定期日である二二年六月段階で再建募金が目標額に到達しなかった場合は、百周年記念募金の

内、将来の館山寮維持管理のための資金から支出。

\*\*\*

この計画は、十二月の代67で承認されました。二二年二月の代68には、第二期工事の一月末における以下の最新状況報告がありました。

\*\*\*

・日程（いずれも二二年）

加藤建設との契約	一月二十日
女子棟解体開始	一月二十日
男子棟完成予定	六月中旬
女子棟完成予定	六月下旬
浄化槽完成予定	六月下旬
完了検査終了	六月末日
引渡し	七月上旬

・工事費・配線工事に見積り漏れがあり、十二月の代表幹事会での見積額より九八万円増加。概算見積もりは別表の通り。



## まとめと御礼

当初は二〇年六月完成を目指した館山寮再建工事ですが、結局二年遅れの二二年六月となる見込みです。新型コロナウイルスの感染の拡大影響を受けて諸事の進行に大きな遅れが出ました。

学校や事務局が閉鎖となったり、総会や代表幹事会が書面開催になるなど、今まで経験したこともない大きな環境の変化がありました。異なるビジネスエリアでお仕事をされている方々がメールやテレビ会議で一億円を越す再建工事に関して計画、立案、審議、調査、検討等々を実行するのは大変なことでした。

何とかそれを乗り越えてきたのは、同窓会員の館山寮に対する熱い思いでした。同窓会員だからこそ、一時的な行き違いも乗り越え、お互いに理解しあえて先に進むことが出来ました。

改めて同窓会会員の皆様のご理解とご支持に感謝申し上げます、同時に毎週テレビ会議で再建計画を作り上げて頂いた館山寮再建実行委員会の方々、あるいは計画実行にご協力頂いた朝陽同窓

会役員・財団役員の方々、支援頂いた学校、PTAの方々、朝陽水泳会の方々に厚く御礼申し上げます。

明年発行の朝陽七二号では、完成した建物の詳細や、完成までの経緯についてより詳しく報告できるものと思われまます。ご期待ください。

(財団法人朝陽会事務局)

## 館山寮第2期工事概算見積

工事関係	9,943	男子棟建築	4,572
		女子棟解体・建築	3,774
		浄化槽更新	1,355
		管理人室修復	207
		その他工事	35
設計・監理関係	960	設計費	660
		監理費	300
初期費用	300		
計	11,203		

数字単位はすべて万円

22年2月地鎮祭、設計担当のニジアーキテクト、施工会社の加藤建設、朝陽水泳会、朝陽会の各代表が参列



22年4月の男子棟建築状況

